



月1回 中旬・下旬発行予定

道新販売所通信

ねっとわーく屈足

ねっとわーく屈足Ohクッタリ♪編集室
編集責任者 岩佐 彰
新得町屈足幸町1丁目53番地
(道新岩佐販売所内) TEL65-3111

万感の思い、旧岩松小学校解体

63年の歴史 ピーク時には128人在籍、卒業生512名



写真一

解体作業が始まった旧岩松小学校6月27日早朝撮影。

7月道新の休刊日は16日(火)です。

○ よろしくお願ひいたします。



写真二

在りし日の旧岩松小学校(岩松福祉館)

岩松小学校の閉校後、地域の集会場として活用してきた岩松福祉館、築64年の老朽化の影響で今年26日から解体作業がはじまった。

1913年(大正2)年掘っ立て小屋の仮校舎を建築し、私立家庭教育所として同校が創立。児童数12人でスタートした。

1939(昭和14)年から、岩松発電所と同ダム工事の建設に伴い児童数が急増。ピーク時には128人が在籍した。

児童数が5人に減少した1976年3月に、63年の歴史に幕を閉じ、屈足小学校に統合した。

卒業生は512名、閉校時の児童数は5名、校長は明見秀和氏であった。

1963年(昭和38)開校50周年を祝い、校歌の制定や鼓笛隊の編成が行われた。また、昭和45年以降は富村牛小との交流



水本敏政さん

学習(集合学習)が積極的に行われ、多くの成果をあげた。

岩松小学校63年の歴史を振り返り今年5月には同小卒業生やゆかりのある関係者が約30人が旧岩松小学校(岩松福祉館)で水本敏政さん(68)と写真11963年卒業11らが世話となり、卒業生に参加を呼び掛け実現した。水本さんが「最後の雄姿を目に焼き付けたい」とあいさつ。来賓の金田将副町長が祝辞を述べた。町内でも桜の銘木といわれていた樹齢100年を超えた満開の桜が、参加者を迎え、それぞれの思いを胸に旧岩松小学校校舎との別れを惜しんだ。水本敏政さんは校舎解体に当たり「半世紀以上(築64年)に渡り地域の象徴であった校舎を解体しなればならないというのには寂しく切なく万感の思いでいっぱいです。建物はなくなりますが心の中に思い出さずしていきま

全道版ぶんぶんクラブ 加盟店GUIDE BOOK2019



道新ぶんぶんクラブ加盟店2387店舗掲載の全道版希望者に差し上げます。お問合せ下さい。



6/23 屈足のタンチョウさんの朝食風景です。今年は寂しいですが屈足っ子の姿はなく夫婦のだけです。きっと来年は赤ちゃんが誕生するでしょう。

元気です！屈足のタンチョウさん

小学校)を岩松町内会が環境面などで管理協力してきた西村良雄(67)さんは「岩松福祉館は地域の交流の場として集会、カラオケ、新年会、ゲートボール、などで利用させてもらいました。近年は住民が少なく10年ほど前の町内会総会が最後となりました。解体は本当に切ない思い一杯です。岩松の象徴として桜の銘木を中心に公園として整備してほしいと思います」卒業生512名、ゆかりの人や関係者のそれぞれの万感の思いの中、旧岩松小学校は姿を消す。